

## 公益財団法人 動物臨床医学研究所における 臨床研修のあり方

高島一昭<sup>†</sup> (公益財団法人 動物臨床医学研究所所長)



### 1 はじめに

当財団は、獣医学に関する臨床的研究を行い、併せて獣医療技術の向上を図るための教育と知識の普及及び情報提供を行うことにより、動物臨床医学の向上を図るとともに、人と動物の共生の探究及び動物愛護思想の啓発普及事業を行い、もって獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを目的に1991年に設立された。財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所は、2011年に20周年を迎えたが、同年の4月より、鳥取県の財団から国の財団に移行し、

公益財団法人 動物臨床医学研究所 (図1, 2) として、新たに生まれ変わった。

当財団は、臨床研究はもとより、日本学会協議の協力学術研究団体として認められた正式な学会である動物臨床医学会をはじめ、小動物臨床血液研究会、小動物臨床栄養学研究会、動物のいたみ研究会、卒後教育セミナーなども開催している。また、数十年に亘り、毎月開催してきた合同カンファレンス (図3) は、2010年度より「知の市場」の連携機関・開講機関となり、獣医師及び獣医系大学の学生、動物看護師などを対象に広く受講者を募集し行っている。

社会貢献活動の一環として、野生動物の保護管理活動



図1 公益財団法人 動物臨床医学研究所本館



図3 合同カンファレンス (知の市場)



図2 財団図書室。臨床系の海外学術雑誌も含めて多数の図書を収納してある。



図4 基幹病院である倉吉動物医療センター・山根動物病院外観 (財団の斜め前に立地している)

<sup>†</sup> 連絡責任者：高島一昭 (公益財団法人 動物臨床医学研究所)

〒682-0025 倉吉市八屋214-10

☎0858-26-0851

FAX 0858-26-2158

E-mail: dorinken@apionet.or.jp



図5 第1手術室（奥）と第2手術室（手前）



図7 野生動物の治療



図6 開心術。体外循環装置下にて心臓手術を行っているところ。

も行っており、鳥取県中西部で保護された疾病野生動物をすべて受け入れて治療している。また、盲導犬の育成助成にも力をいれており、今まで3頭の盲導犬の貸与（寄付）が実現している。

## 2 小動物臨床研修診療施設

2011年3月、動物臨床医学研究所グループとして、農林水産大臣から、小動物臨床研修診療施設の指定を受けた。小動物の協力型臨床研修施設としては初めての指定になる。基幹診療施設として、倉吉動物医療センター・山根動物病院（図4）、協力型診療施設として、米子動物医療センター、山陽動物医療センター、宇野動物病院、小出動物病院、シラナガ動物病院、舞鶴動物医療センターが指定された。

## 3 研修プログラム

研修として、臨床獣医学に求められる知識や技能を習得するのはもちろんだが、獣医医療に対する社会的な要望に応えることができるような精神や態度の習得にも重きを置いている。今まで財団として、1日単位の短期研修の受け入れを行っており、今後も継続をしていく

が、臨床研修診療施設としての研修は2年間としている。この間は、研修生とはいえ、正規職員としての雇用を行っている。待遇として、週休2日の勤務（研修）で、健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険に加入し、有給休暇もある。

1年次には、診療の流れやカルテの記載法、診断法、画像診断、院内感染防御などの学び、また現場で飼い主の方との接し方、インフォームドコンセントについても学ぶ。その後、指導獣医師のもとで、稟告の聴取法や身体検査法、各種検査法、注射法などの研修が始まる。動物の伝染病や寄生虫、予防法、消毒法などについて、また、ズーノーシス、狂犬病予防事業など公衆衛生分野についても学ぶ。手術の際には、麻酔医の補助を行っていく。麻酔法として、麻酔薬及び麻薬の使用法や管理の方法、法的な事柄なども学ぶ。そして実施の麻酔に立ち会い、血管確保や気管内挿管、輸液法、疼痛管理法、麻酔モニターの見方などについて実習し、また異常があった場合の対処法を学ぶ。大まかなことが理解、習得できた時点で、指導医のもとで、簡単な診察を行っていく。半年をめどに、指導獣医師のもとで実施に麻酔を行っていく。手術法についても学んでいく（図5、6）。麻酔施用者の免許もこのころに取得し、疼痛管理も行っていく。また、一般の診察にも少しずつ参加し、診断治療を行っていく。緊急疾患に対する処置も覚えていく。

臨床で行っている診療行為を体系的にまとめていくために、毎月開催されている合同カンファレンス（知の市場）に参加し、また症例発表を行う。カンファレンスでは、様々な分野における教育講演があり、また症例検討会が行われている。各分野における知識を深め、自分が経験していない症例に接することができるばかりか、自分の発表を通し、抄録の書き方、スライドの作り方、発表方法、質疑応答への対応法など、多くのことを学んでいく。また、県学会や地区学会、動物臨床医学会にも参加発表する。このように、現場の研修にて臨床的な技術と精神を学び、それと同時に学術的な教養・知識を身に

つけていく。

また、当財団が鳥取県の指定救護施設であるため、疾病野生動物を多く受け入れている現状にある（図7）。ほとんどが鳥類であるが、それらの診断治療を行っている。

2年次になると、他の獣医師のアドバイスを受けながらも1人で診察ができるように訓練していく。また、麻酔も1人で行えるように、手術室の準備、麻酔の準備、麻酔管理、術後管理などを訓練する。そして、実際に手術助手として手術に立ち会う。術式と同時に、器具機械の使用法や操作法なども習得し、手術の進行に合わせたアシストが行えるように訓練していく。学会活動は同様に継続していき、その他、臨床に必要な事柄を習得していく。

研修評価は、日常の研修状況はもちろんであるが、診療日誌や合同カンファレンスの発表及びその抄録、レポ



図8 倉吉動物医療センターのスタッフと共に(2011年3月)

ートなどにて研修委員会にて行っている（図8）。

2012年度からの研修生（職員）募集も行っているの  
で、ご興味のある方はご一報ください。